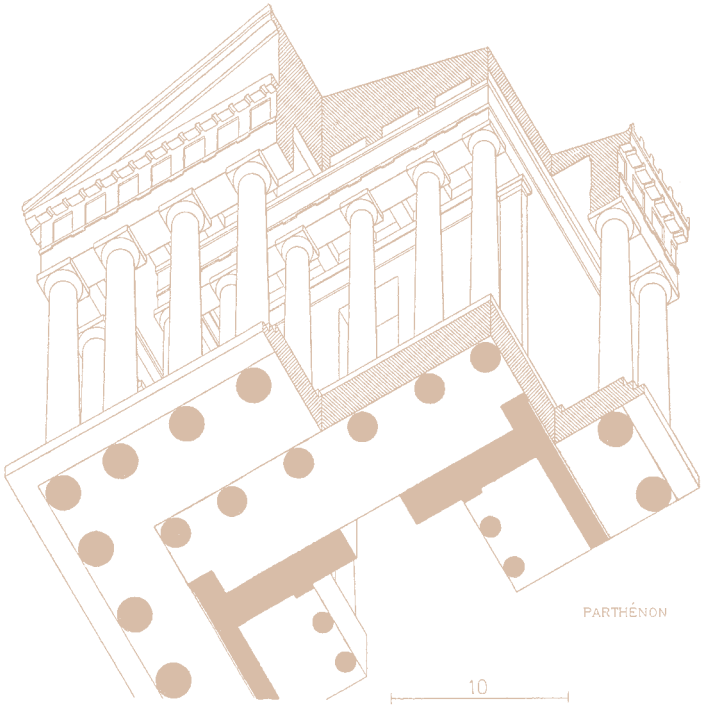
オーギュスト・ショワジー

建築史

〈全二巻〉

桐敷 真次郎　訳



上巻

エジプト・カルデア・アッシリア・ペルシア・インド・中国・日本・ギリシア・ローマ　他

下巻

イスラム・ロマネスク・ゴシック・ルネサンス・近代　他

中央公論美術出版

フランス19世紀に活躍した才能豊かなエンジニア、ショワジーが、世界のあらゆる建築様式の根底にある、共通の原理・法則を解明。

上巻　目次

解説：オーギュスト・ショワジーとその「世界建築史」
桐敷真次郎

第 1 章　先史時代
主要な時代区分
方　法
装　飾
建造物
年代と影響の問題　建築の最初の中心地

第 2 章　エジプト
構　造
石造構造の一般的方法
建造法の詳細
形　態
比例の法則、眼の錯覚
建造物
芸術と社会体制、時代と影響力

第 3 章　カルデア・アッシリア
建造の一般的方法
形態と比例
建造物
住　居
芸術と社会状況、時代、影響力

第 4 章　ペルシア
方　法
形態と比例
建造物
技術と労働条件、時代と影響力

第 5 章　インド
方　法
形態と比例
建造物
芸術と社会制度、影響力

第 6 章　中国・日本
方　法
形態と比例
建造物
時代、影響力

第 7 章　新世界の建築
構　造
形態と比例
建造物
時代、　起源の問題

第 8 章　初期建築の西方への波及　エジプト、カルデア、ギリシア世界の仲介者たち
ヒッタイト人
フェニキア、ユダヤ、フェニキアの植民地
芸術と社会組織　年代的指標、影響圏

第 9 章　青銅器時代のプレヘレニック建築
ホメロス時代の建築
装　飾
建造物

第 10 章　鉄器時代のプレヘレニック建築
構　造
装　飾
建造物

第 11 章　ギリシア建築
ギリシアの構造法
装飾の一般的要素
ドリス式オーダー
イオニア式オーダー
ギリシアのオーダーのヴァリエーション：
　コリント式オーダー、カリアティド、
　屋階、各種オーダーの役割と結合
ギリシア芸術における比例、透視画法、ピクチャレスク
ギリシア神殿
一般建築のモニュメント
芸術、資源、時代

第 12 章　ローマ建築
ローマの構造法
装　飾
ローマの市民生活の建築と異教の建築
建築とローマの一般史および社会組織との関連

索　引

下巻　目次

第 13 章　古代芸術のキリスト教的革新
第 14 章　イスラム建築
第 15 章　ロマネスク建築
第 16 章　ゴシック建築
第 17 章　中世の世俗建築、修道院建築
第 18 章　中世の軍事建築
第 19 章　イタリア・ルネサンス
第 20 章　フランス、ヨーロッパのルネサンス
第 21 章　近代の建築

推薦のことば

充実した古典建築書の、平易で滑らかな定評ある訳業

飯田 喜四郎（明治村館長）

衣食住のすべてに事欠く昭和23年、吉川逸治先生が出版された『中世の美術』（東京堂刊）に引用されている17点のアクソメ投影図により、私は初めてショワジーの『建築史』の存在を知った。2巻・1,000ページを超える大著なので、ヴィオレ・ル・デュクがこの『建築史』に与えた影響を調査したほかは、必要な個所を拾い読むことしかできなかった。

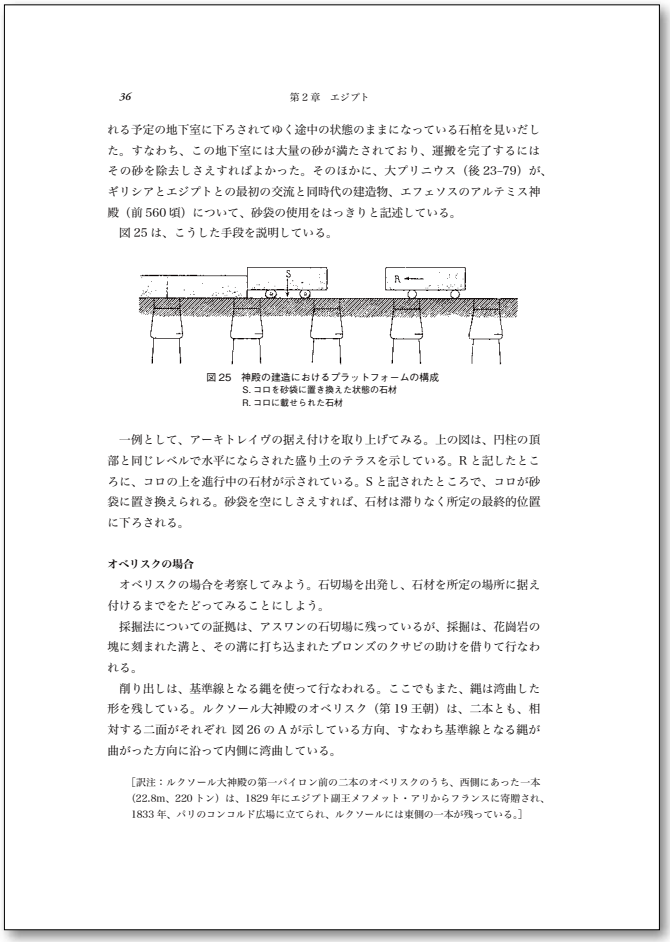
本書を訳出された桐敷氏は西洋建築史研究の開拓者の一人で、D. ワトキン著『建築史学の興隆』（1993年、中央公論美術出版刊）を翻訳され、P. L. ネルヴィ監修『図説世界建築史』（全16巻、1996～2003年、本の友社刊）を監修・訳出された学究である。氏の著作は充実した内容を、平易で滑らかな文で表現される点で定評を確立している。

簡潔だが読者を引き付ける力をもつヴィオレ・ル・デュクの文章に比べて、ショワジーの文章は簡略に過ぎるため理解しにくい点がまま見受けられるが、これらの難解な部分も論理的に訳出されている。膨大な翻訳に加えて多年の経験から、訳者はショワジーの『建築史』に認められる幾つかの欠陥を是正された。

その第1は索引の新設で、これによって本書の使用価値は倍増する。その第2は本文中の図版に表題と出典を加え、必要に応じて解説を補足した点である。表題と出典（または著者名）は原書の巻末に目次と兼用して列記されていたが、これを本文中に移して読者の便宜をはかったうえに、2巻を通じて図版に一連の番号を与え、図版の位置を明確にした。その第3は引用された建物の名称や地名を現在の呼称に改めると共に建設年代を加えたほか、文中に多数の訳注を加えた点である。

なお本訳書の巻頭に『オーギュスト・ショワジーとその「世界建築史」』と題する30ページ余りの詳細な解説を加え、ショワジーの生涯と業績、『建築史』の構成と特色、世界建築史としての本書の位置について述べ、ショワジーの著作とショワジーに関する文献一覧を末尾に掲げている。

［組見本］



36　第2章　エジプト

れる予定の地下室に下ろされてゆく途中の状態のままになっている石棺を見いだした。すなわち、この地下室には大量の砂が満たされており、運搬を完了するにはその砂を除去しさえすればよかった。そのほかに、大プリニウス（後23-79）が、ギリシアとエジプトとの最初の交流と同時代の建造物、エフェソスのアルテミス神殿（前560頃）について、砂袋の使用をはっきりと記述している。

図25は、こうした手段を説明している。

図25　神殿の建造におけるプラットフォームの構成
S. コロを砂袋に置き換えた状態の石材
R. コロに載せられた石材

一例として、アーキトレイヴの据え付けを取り上げてみる。上の図は、円柱の頂部と同じレベルで水平にならされた盛り土のテラスを示している。Rと記したところに、コロの上を進行中の石材が示されている。Sと記されたところで、コロが砂袋に置き換えられる。砂袋を空にしさえすれば、石材は滞りなく所定の最終的位置に下ろされる。

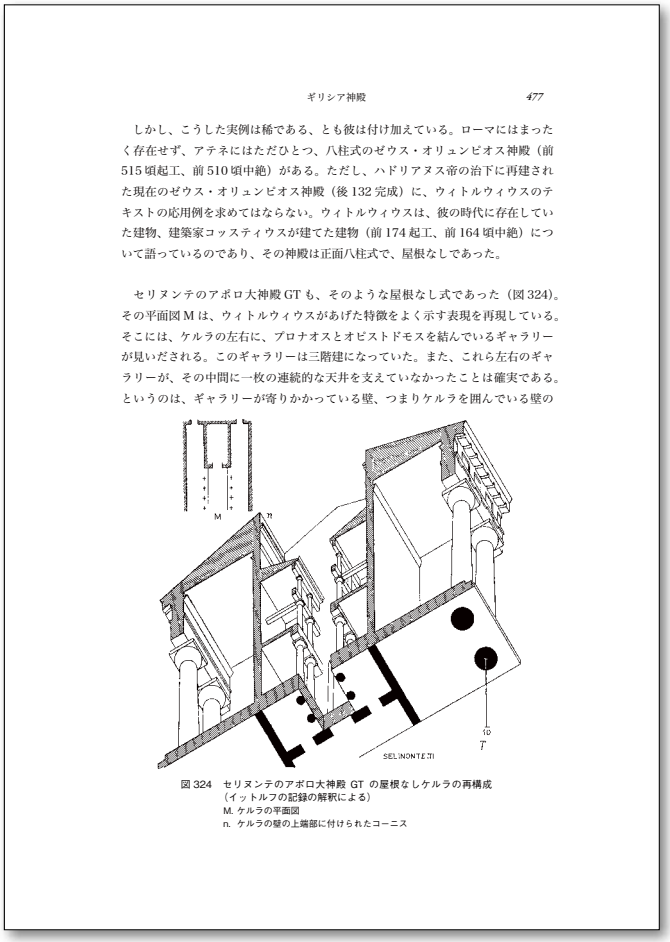
オベリスクの場合

オベリスクの場合を考察してみよう。石切場を出発し、石材を所定の場所に据え付けるまでをたどってみることにしよう。

採掘法についての証拠は、アスワンの石切場に残っているが、採掘は、花崗岩の塊に刻まれた溝と、その溝に打ち込まれたブロンズのクサビの助けを借りて行なわれる。

削り出しは、基準線となる縄を使って行なわれる。ここでもまた、縄は湾曲した形を残している。ルクソール大神殿のオベリスク（第19王朝）は、二本とも、相対する二面がそれぞれ 図26のAが示している方向、すなわち基準線となる縄が曲がった方向に沿って内側に湾曲している。

［訳注：ルクソール大神殿の第一パイロン前の二本のオベリスクのうち、西側にあった一本（22.8m、220トン）は、1829年にエジプト副王メフメット・アリからフランスに寄贈され、1833年、パリのコンコルド広場に立てられ、ルクソールには東側の一本が残っている。］



ギリシア神殿　477

しかし、こうした実例は稀である、とも彼は付け加えている。ローマにはまったく存在せず、アテネにはただひとつ、八柱式のゼウス・オリュンピオス神殿（前515頃起工、前510頃中絶）がある。ただし、ハドリアヌス帝の治下に再建された現在のゼウス・オリュンピオス神殿（後132完成）に、ウィトルウィウスのテキストの応用例を求めてはならない。ウィトルウィウスは、彼の時代に存在していた建物、建築家コッスティウスが建てた建物（前174起工、前164頃中絶）について語っているのであり、その神殿は正面八柱式で、屋根なしであった。

セリヌンテのアポロ大神殿GTも、そのような屋根なし式であった（図324）。その平面図Mは、ウィトルウィウスがあげた特徴をよく示す表現を再現している。そこには、ケルラの左右に、プロナオスとオピストドモスを結んでいるギャラリーが見いだされる。このギャラリーは三階建になっていた。また、これら左右のギャラリーが、その中間に一枚の連続的な天井を支えていなかったことは確実である。というのは、ギャラリーが寄りかかっている壁、つまりケルラを囲んでいる壁の

図324　セリヌンテのアポロ大神殿 GT の屋根なしケルラの再構成
（イットルフの記録の解釈による）
M. ケルラの平面図
n. ケルラの壁の上端部に付けられたコーニス

ル・コルビュジエをはじめ、多くの建築家に影響を与えた
現在も未来も読み継がれる世界建築史の古典的名著。

書　名　**建築史　上巻**

著　者　オーギュスト・ショワジー

訳　者　桐敷 真次郎

サイズ　B5 判
ページ数　768 頁
挿　図　412 点
体　裁　上製本・函入り
定　価　**47,250 円**（本体 45,000 円＋税）

ISBN978-4-8055-0561-8 C3052

2008 年 1 月刊

本書の特色

- ＊上巻を古代およびペルシア・インド・中国・日本建築、下巻を中世建築以降にあて、時間的・空間的に広範囲な内容となっている。
- ＊建築様式の根底にある共通の原理・法則を解明。
- ＊ショワジー独自の斜投影図を用いた図版を多数掲載。建物の平面・立面・断面を一枚の図で明快に表現している。
- ＊建築の影響力を歴史的な文化と交易路から読み解き、建築様式の伝播地図を挿入。
- ＊本訳書には、原書で不透明な記述に訳注を補足。訳注は本文中に入れたため、全体をなめらかに通読することができる。また各図版に図版名称、出典などを補足。巻末には詳細な索引を新たに作成。

オーギュスト・ショワジー　Auguste Choisy
(1841-1909)
フランス 19 世紀に活躍したエンジニア・考古学者・建築史家。中世建築と構造合理主義の碩学ヴィオレ・ル・デュクの強い影響を受け、その早熟、多彩な才能を開花させて、弱冠 33 歳でレジョン・ドヌール勲章を授与。1899 年、主著である本書『建築史』全 2 巻が上梓され、その業績に対しイギリス建築家協会からゴールド・メダルを受賞している。

訳者略歴

桐敷 真次郎（きりしき　しんじろう）
1926年東京都生まれ／1950年東京大学建築学科卒業／1953年同大学大学院中退、東京都立大学助手／1955～57年ロンドン大学コートールド美術研究所研究生／1960年東京都立大学助教授／1962年工学博士／1971年～90年同大学教授／1990～97年東京家政学院大学教授／1998～2000年地中海学会会長／日本建築学会賞・マルコポーロ賞受賞／主な著書に『パラーディオ「建築四書」注解』（中央公論美術出版）

続刊

建築史 下巻
オーギュスト・ショワジー　著
桐敷 真次郎　訳

B5 判　上製函入
ページ数　900 頁（予定）　挿図　455 点
予価　50,000 円
ISBN978-4-8055-0562-5

2008 年 9 月刊

中央公論美術出版
http://www.chukobi.co.jp
〒 104-0031　東京都中央区京橋 2-8-7
電話 03-3561-5993　FAX 03-3561-5834

お取扱いは